

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人福岡カトリック学園 門司聖母幼稚園

1. 本園の教育目標

「心の豊かな子どもに」を教育目標とし、カトリック精神に基づき「心の教育」を目指す。

- 生きる喜び、命の大切さを知る
- 感謝の心、思いやりの心をもつ
- 意欲をもって粘り強く取り組む子どもを育てる

2. 本年度の重点的に取り組む目標・計画

本園の教育目標、教育理念、方針に沿って 各学年の教師は 年間目標、週案、日案を作成する。

その際 教師間で共通理解が深まるよう話し合う機会を 多く持つよう努める。

又、評価項目について自己点検、自己評価を行うことによって

教育内容の更なる改善に取り組んでいく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価内容	評価	評価の理由や取り組み内容
保育計画と内容	B	保育計画を多方面の視点から立て、よりよく実施すべく意見を出し合い、工夫し奮闘した。しかし目指す意識を持ちつつも、現実の保育の中で様々な対応に追われ、行事をこなすことに終始する傾向があったことも否めない。
保育のあり方 幼児への対応	B	幼児一人一人を真剣に見る思いは強く意識してきた。しかし、時に行事をこなすことに意識がそれてしまい、幼児という人を見るべき時に、幼児の向こう側の行事を見ていることがあったことは否めない。
環境の構成	B	幼稚園という建物の環境については、コロナ禍が完全に終焉しない中、緩みのないよう職員全体で繰り返し確認した。 もう一点、気に留めるべき心の環境については、職員として、常に幼児と共に学ぶべき意識の向上心には、不安定な部分もあった。
教職員相互の 協力・連携・役割	B	幼児の見えない部分での教職員間の関わりが、最も大切であるのは自明なこと。協力・連携・役割とは、受け身ではなく、自らが率先して踏み出す意識で行うべきこと。このような見えない部分での姿、姿勢こそが幼児の心に映し出される宝物なのでは。このことを常に、各人が誠実に振り返るべきこととして、今後とも大切にしていきたい。
教師としての資質 や保育の質の向上	B	このために肝要なことは、幼児教育への新鮮な気持ちと心がけ。それは多年の経験を経た者こそが、時代・社会背景・人間の価値観の変化のもとにある幼児たちの姿を、ふさわしい視点で見つめることであり、地道な学びを深め、よりふさわしい対応を心がける意識が求められる。このために、個人として、教職員団として、今後も意識の向上に努める必要あり。
保護者への対応 家庭支援・地域 との関わり	B	幼児の成長のために、保護者からも聞くことを大切にしたい。また保護者が何かを話したいという意思表示をされる時、見逃すことなく、その機会を大切に受け入れることを心がけてきた。人の関わりは聞き合うことにより深まる。これからも、ありのまま聞き、受けとめることを大切にしていきたい。 地域との関わりは特に行っていない。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価	理由
B	教育目標、教育理念・方針を日々の幼児教育で浸透させ、幼児の成長の一助となるべく努力してきた。しかし幼児に伝える「心の豊かな子どもに」を、先ず教職員自身が、心の豊かさとは何かを常に模索しなければ意味がなく、飾りに堕してしまう。各人の自覚が問われる。教職員自らの生き様からあふれる「心の豊かさ」でなければ、他者（子ども）に伝わらず、空しいきれいごとで終わってしまう。

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
保護者との連携	保護者の考え方も、それぞれに様々なものがある。どの保護者に対しても差をつけることなく向き合いその考えを真剣に忍耐をもって聞くことを大切にする。且つ、幼稚園の考えることも丁寧に説明することを常に心がけていく。こうして、個人として、保護者会としてのコミュニケーションを深める。
教師の資質向上	教職員の資格向上のためには、他者の呼びかけを誠実に聞くのと同時に、自らの発信も大切。立場に左右されることなく、現実の経験に裏打ちされた意見を各人が話し合い、聞き合う。こういう作業こそが宝物なのでは。そして探求心が求められる。安易な現状維持、自己満足ではなく、前向きな姿勢が大切。子どもたちにそういう姿の模範をみせられる教職員でありたい。
安全管理	新聞・ニュース等の情報で、事件や問題が報じられると、必ず、自分たちの意識を確認し、気持ちの見直しを繰り返してきた。そして話し合い、意識を共有し、その上で、子どもたちにも必要なことを話し、意識づけを行ってきた。自分たちが安易に妥協せず、心に緩みのないことを、今後も常に意識していきたい。

6. 学校関係者評価委員会の評価

- ・コロナの状況も少しずつ緩和し、行事も元のように全てできるようになった訳ではないが、内容を工夫したり、違うかたちで行事を行うことができていた。
- ・子どもたちの事を一番に考え、出来ない中でも何が出来るか先生達が真剣に考えられていた。

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

委員会実施日 令和 5年 3月 30日